家電量販店に入社して2年、今の仕事は苦手で転職したい

―転職に向けた就職支援機関での適性検討―

カウンセリング事例5
VRT/GATB×社会人

編集部

事例
大学経済学部卒
家電量販店入社２年目
Kさん（男性・25歳）

今の仕事は不本意で就職した。
自分にとっては一番苦手なものとの認識が強く、転職を考えている。
その前に自分の適性について検討したい。

新卒時の就職活動について

新卒時の就職活動ではもともとメーカーを希望していた。今思えば深く考えていたわけではなく、会社のイメージとして代表的なのがメーカーだった、という感じ。活動中に周りがどんどん就職を決めていくのを見て焦ってしまい、成り行きで決めて今の家電量販店に入社した。

現在の仕事について

パソコン売り場で販売を担当。パソコンにはそれほど興味はない。お客さんからはさまざまな質問があって対応しきれないと思うこともしばしばで、毎日店に立つのを苦痛に感じている。先輩を見ていると、自分はつくづくお客さんを相手に臨機応変に対応することは苦手だと思う。

接客以外には、店頭での商品の陳列（ディスプレイ）などの仕事もあるが、最も苦手である。工夫しながら見る人にわかりやすく、きれいに並べるということができない。感覚的、創造的な仕事は向いてないと思う。

好きな仕事

マニュアルどおりに、じっくりと取り組める仕事のほうが好き。売上伝票を整理して集計する仕事などは苦にならない。早くしなくてはいけないという時間的制約があって急かされるのはイヤだが。

自分としては大学のゼミで勉強した経理・会計の知識を生かした経理事務の仕事が向いているのではないかと思う。当時は何となく面白そうだったから選び、簿記２級を取ったりしたが、そういう志向があったのかもしれない。今ひとつ確信がもてないので、転職する前に適性を客観的に確認しておきたい。

ＶＲＴの自分の結果を見て

決まったやり方に従って、手堅い活動をすることを好むという傾向は、自分の思っていたことと一致するので、納得でき、安心した。転職に向けて準備したい気持ちになってきた。

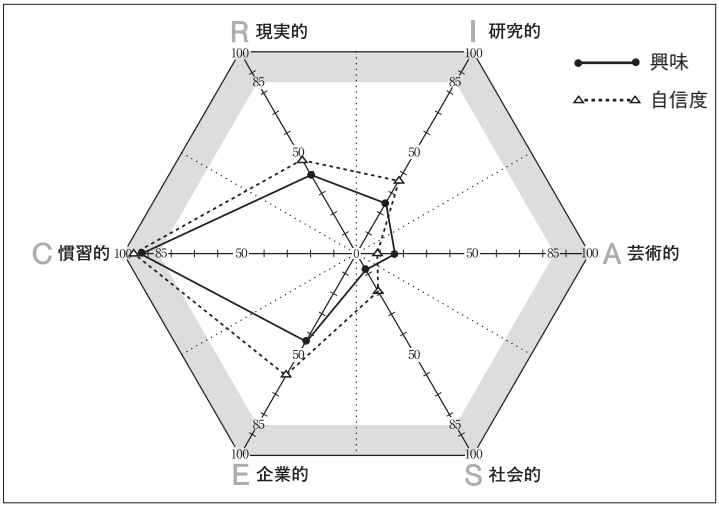
Ｃの領域にある仕事では、会計事務員、経理事務員、税理士、公認会計士などが気になった。

先日、インターネットで国税専門官という仕事があるのを見て、興味を引かれた。きちっと決まったことをしていく仕事で、自分に合っているのではないか。試験を受けて合格しなければならないが、そのためにこれから準備を始めて勉強することは、苦にならなそうな気がする。

今から勉強して国税専門官試験にすぐ

VRT　結果プロフィール

■興味（Ａ検査）と自信（Ｃ検査）の六角形

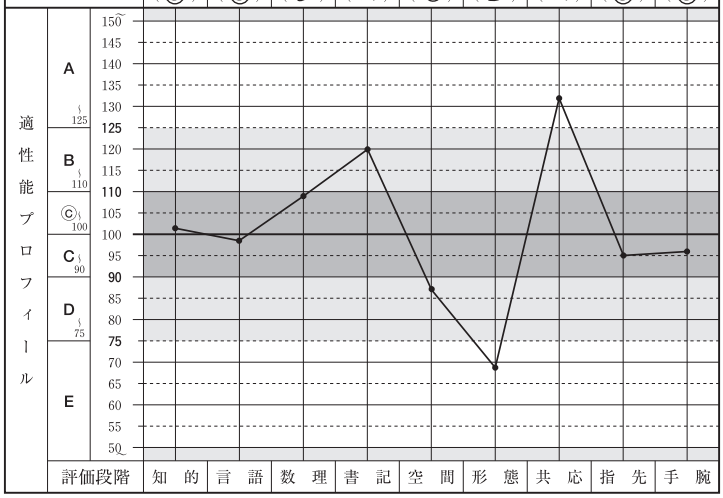


●Ｋさんの VRT の結果

興味領域でのＫさんの特徴は、Ｃ領域のみが90パーセンタイル以上と突出して高く、その他は非常に低いこと。ルールに従って行うような定型的な仕事に興味が高いということで、対人的な仕事（Ｓ領域）や創造的、感覚的な能力や関心を求められる仕事（Ａ領域）にはあまり興味はないようである。一方では、組織で働き、企画を考えたりすること（Ｅ領域）には興味も自信も一定程度あるという結果であった。

GATB　結果プロフィール

適性能得点	G	V	N	Q	S	P	K	F	M
	101	98	109	120	87	69	132	95	96
評価段階	Ⓒ	C	Ⓒ	B	D	E	A	C	C
（加算評価段階）	+8 109（Ⓒ）	+8 106（Ⓒ）	+8 117（B）	+8 128（A）	+10 97（C）	+10 79（D）	+10 142（A）	+12 107（Ⓒ）	+12 108（Ⓒ）
評価段階	知的	言語	数理	書記	空間	形態	共応	指先	手腕



●KさんのGATBの結果

GATBの結果では、Kさんが希望する「(39)経理・会計の仕事」の基準（G：90、N：90、Q：100）を満たしていた。書記的知覚（Q）が比較的高い特徴と、VRTのC領域への関心の強さを併せて考えると、経理事務の職業は向いているといえる。公認会計士や税理士は「(21)法務、財務の仕事」となり、所要適性能基準も高くなり（G：125、V：125、N：100）、試験もあるので、準備が必要である。また、プロフィールではわからないが、各検査の回答を個別に見てみると、間違い（誤答）が少なく、丁寧な取り組みをしていることから、几帳面で正確な仕事ぶりが察せられた。

合格するとは思えないので、まずは、とりあえず別の道で就職することも考えたい。企業規模にこだわらずに経理事務の求人を探してみたり、会計事務所などに入って、資格の勉強をするというのもいいかもしれない。

本人は、国税専門官、会計士などを目指すという方向での計画をより具体的にするために、「能力面も確認しておきたい」との希望を述べた。次回、GATB（厚生労働省編一般職業適性検査）を行うこととなった。

■GATBの自分の結果を見て

やはり公認会計士などは難しいかもしれないが、経理の仕事は合うと思うので、よかったと思った。勇気づけられた。求職活動をしていく励みになりそう。

Kさんはやや心理検査に期待をしすぎている傾向が見られた。「GATBで測定できる範囲では適性がある」ということで、これで何でもわかるわけではなく、いろいろな面から職業適性をとらえていく必要もあることを伝える。Kさんの場合は、VRTでの職業興味も合致しており、経理の仕事への意欲もあるので、方向性としてはよいと思われる。

後で、「転職するとなるとちょっと不安なので、客観的なデータの裏づけが欲しかったのかもしれません」と述べた。

プロフィールや適性職業群の基準を満たしているか否か以外にも、職業への意欲や興味、価値観や環境への適応力などさまざまな要素があるので、希望する仕事と関連づけて多角的に考えてみることを促す。

●フィードバックのヒント

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結（ゆう）　代表
山本公子

相談支援にアセスメントを取り入れることで、その人の全体像や直感的な印象を生かしつつ、客観性を高め、相談の信頼性を増すことが可能になる。結果が思いがけないものであったとしても、一つずつの回答の積み重ねには、そのときの本人の一面が表れている。

どういう主訴や目的をもって、どんな気持ちで相談に来たか、問題に回答しながら、考えていたこと、結果をどう思ったかなど、心の内は面談で話し合い、尋ねていく。

検査の結果には、志向性や能力特徴が表れている。本人自身も結果説明を受けて、改めて自分のことを考え、気づきがあったようである。

（「職業研究」2015秋季号より）

※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。